

葦

第35号

平成17年12月発行

奈良県立医科大学附属病院
看護部教育委員会

平成 15 年度

第 2 部

看護研究発表集録

目 次

第1部 教育講演抄録

1. 看護部の方針について 看護部長 森本 智磨子 9

第2部 看護研究発表集録

1. 転倒転落予防におけるスコアシートと危険防止対策表を用いた転倒転落の予防効果
— スコアシートと危険防止対策表使用前後における看護師の
アンケート調査より — 南2階 田中 治美 11
2. 患者と看護師の音環境に対する認識
— ICUの音の実態調査と看護師および患者への「気になる音」の
アンケート調査結果より — A棟4北東 藤田 江美 15
3. カーテン越しの内診を受ける患者の意識
— 外来受診者85名にアンケート調査を実施して —
A棟5階南 内田 ゆきえ 20
4. 盲患者の安全で安心できる入院環境の検討
— 盲患者4名による食事・排泄・清潔・姿勢に関する聞き取り調査を通して —
A棟7階北 椿本 真理 24
5. 院内感染対策への一考察
— 当院看護部職員581名のSARSに関する意識調査を実施して —
南3階 松尾 正子 29
6. ホルムアルデヒドガス消毒に代わる保育器の消毒方法の検討
周産期医療センター新生児集中治療部 陰山 裕紀子 34
7. 水がもたらす含嗽の効果
— 緑茶・イソジンとの比較を行って — B棟7階 徳永 綾子 38

8. 一次洗浄廃止に向けて汚染機械の洗浄評価

— ATP（アデノシン三リン酸）測定法・アミドブラック 10B 染色法にて —

中央材料室 梅田 妙子 43

9. 病名を告げられた癌患者の受容過程と看護師の関わり

B棟6階 藤田 ひとみ 46

10. 奈良県立医科大学附属病院における医師 108 名・看護師 119 名への

がん終末期医療に関する意識調査 A棟6階南 石濱 華奈 50

11. 喉頭全摘術を受けた患者の看護介入の充実に向けて

— クリティカルパス作成の過程でみえてきたこと —

A棟7階南 柴山 正美 55

12. 血液腫瘍患児へ紙芝居を用いたプリパレーションを行って

A棟4階南 廣川 かおる 59

13. 仰臥位背部除圧物品の違いによる保温効果の比較、検討

— 麻酔導入前から温水循環式マットで加温した効果 —

中央手術部 山内 美智子 64

14. シャワー浴後のギプス内不快感の早期改善方法について

— ギプス冷却用具を用いての温湿度測定とスケールによる調査からの検討より —

B棟4階 山口 香織 68

15. 硬膜外麻酔チューブキャリングバッグの工夫

— 安全安楽に持ち運びのできるバッグを作成して —

A棟6階北 杉田 美代子 73

16. 側臥位における膝から踵部にかけての除圧方法を検討して

— デキュビデックスとビーズクッションの比較 —

高度救命救急センター HCU 飯沼 有樹子 77

17. 上部消化管内視鏡検査の苦痛に関する実態調査

中央内視鏡部 奥田 和代 81

18. 皮下埋込式リザーバーに関する患者の理解度および訪問看護師の認知度調査	放射線病棟	大橋 千栄子	85
19. 脳血管造影検査の安静時間短縮を試みて			
— 苦痛緩和と安全性の検証 —	脳神経外科病棟	三谷 博子	88
20. 強迫行為のある患者に行動療法を試みて			
— 入浴の自立を目指しての看護 —	D病棟	長谷川 陽子	93
21. 分娩第1期におけるアロママッサージの効果			
— 初産婦6名経産婦4名に実施して —	A棟5階北	上平 賀洋子	96
22. 呼吸器疾患患者に適した洗髪体位の検討			
— セミファーラー位と前屈位を比較して —	B棟8階	福山 景子	100

第3部 その他

1. 平成15年度看護部教育委員の役割分担および委員会開催日時	105
2. 平成15年度看護部教育委員会活動報告	106
3. 平成15年度看護部教育委員会決算報告	107
4. 看護診断研修会	108
5. 平成15年度院外研修会・講習会受講者数	109
6. 平成15年度看護研究発表状況(院外)	110
7. 平成15年度研修・学会参加状況	112
8. 奈良県立医科大学附属病院看護部教育委員会内規	118
9. 投稿規定	120

投 稿 規 定

1. 本紙に投稿する者は、看護部に属していなければなりません。ただし、看護部教育委員会において、特に許可した者はこの限りではありません。
2. 内容に関しては、次の2種類に限定致します。
 - ① 看護に関する研究的内容のもの。
 - ② 看護婦としての職業に特に関連深い随筆的内容のもの。
3. 投稿者は必ず次の諸条件を守って下さい。
 - ① 提出原稿は、掲載論文とし B5 版 400 字詰横書原稿用紙を使用すること。
 - ② 紙数の制限は、2の①については15枚（図表合わせて15枚以内）、2の②については2枚以内。
 - ③ 題名、所属、氏名は本文とは別の用紙を使用し、一番上にもってくる。これは制限枚数にははまらない。
 - ④ 提出原稿は、共同研究者名を連記するが、発表者を一番先に明記し○印をつける。
 - ⑤ 原稿用紙の使用法を正しく守ること。
 - ⑥ 文献を正しく明記すること。

編 集 後 記

「葦」35号を発刊にあたり寄稿していただいた方々に厚くお礼申し上げます。

発行が遅くなりましたことを関係者の方々に深くお詫び申し上げますと共に、不備な点はご了承下さい。空に向かって「葦」のように成長し続けることをお祈りいたします。

平成17年12月

教育委員

竹 下 京 子

福 西 美千代

堀 口 陽 子

平成15年度

葦

編 集 奈良県立医科大学附属病院
看護部教育委員会
発 行 奈良県立医科大学附属病院
住 所 〒634-0813 奈良県橿原市四条町840番地
TEL. 0744 - 22 - 3051
印 刷 吉村印刷社
